

毎日の「あたりまえ」

陸別町立陸別中学校 三年 請川 久登

私たちが生きている中で「あたりまえ」は何があるだろうか。例えば、事故や事件があった時に警察や消防が駆けつけてくれる。さらに不自由なく学校に通うことができている。他にも色々な「あたりまえ」があるが、このようなことが日本で実現できているのはなぜだろうか。そして、皆さんはこのことを考えたことはあるだろうか。今回は、なぜ不自由なく学校に通えているのかについて、考えていきたいと思う。

なぜ不自由なく学校に通えているか。それは、「税金」の存在があるからだ。私たちがしっかりと勉強ができる環境をつくるためにたくさん税金が使われている。例えば、校舎や机、椅子、教科書、理科の実験道具などがある。私が小学生のとき、教科書に落書きをしたり、破つたりしていた。さらに、歴史上の人物の顔を面白く塗り替えたりしていた。今思えば、大切な税金で買われていたものなのに、雑に扱ってしまったと後悔している。これらが無ければ、学校で勉強をすることは難しいことになる。なので、これからは大事に使っていききたいと思う。

日本では、裕福な家庭の子どもでも、貧しい家庭の子どもでも、私のような悪行をする子どもでも、「あたりまえ」のように学校に通って勉強したり、友達を作ったり、遊んだりすることができている。

しかし、日本の「あたりまえ」が、実現できていない国がある。それは、アフリカ大陸に位置する南スーダンという国だ。南スーダンの教育の現状について調べてみると、識字率は二十七パーセントと、世界で最も低いレベルとなっていて、初等教育の修了率は十パーセント未満となっていることがわかった。南スーダンの子どもが学校に通うことができている原因は、家が貧しくて授業料が払えないことが、主な原因だそうだ。日本では税金を活用して、貧しい家庭の子どもでも就学援助の制度を受けて学校に通うことができている。

南スーダンのように、学校に通うことができている子どもがいる中、私たち学生は、税金のおかげで充実した学校生活を送ることができている。税金があるのは、日本の国民の方々がしっかりと納税をしてきているからだ。私には日本がどのような国になっていくかはわからない。だが、税金があるおかげで学校に通えているという、今の「あたりまえ」に感謝をして学校生活を送っていききたいと思う。

そして今、学校で学んでいることを大人になったときに活かせるように、日本の将来を担える人になるために、成長して生きていきたい。